

ねりまの文化財

平成12年度 登録・指定文化財決まる!

昭和六一年一〇月施行の練馬区文化財保護条例により、毎年、区内にある文化財のうち、価値あるものを「登録文化財」とし、このなかでも特に重要なものを「指定文化財」としています。平成一二年度も文化財保護審議会の意見に基づき、次の文化財について新たに指定・登録することを教育委員会で二月一三日に決定し、翌日告示しました。

地域の歴史を知ることができる古文書などの有形文化財や地域に親しまれている地蔵などの有形民俗文化財の計六件を指定・登録しました。今回で、条例に基づく指定文化財は三四件に、登録文化財は一三一件になりました。

なお、文化財をご覧になりたいときは、所有者の迷惑にならないようご配慮ください。また、文化財によっては公開していないものもありますので、ご注意ください。

相原家薬医門(一棟)

指定有形文化財

- 所有者 相原好吉
- 所在地 田柄五一八
- 通称「南部の赤門」と呼ばれており、木部全体が赤く塗られている門です。

修理の際、屋根裏から建築の由緒などが記された棟札が発見されました。棟札の表面には、万延元年(一八六〇)四月二二日の年記と「再建表門一字御屋舖御武運長久當家繁榮処祈」とあり、裏面には祈願者の「南部様 御用人兼御目付目時隆之進」と相原家当主名などが記されています。目時隆之進は、江戸時代の陸奥国盛岡藩(南部藩)の藩士です。また、名主であった小島家に伝わる享和四年(一八〇四)の古文書に現・光が丘地域に南部藩の領地があったことが記されています。相原家はその土地を管理していたといわれ、この棟札は南部藩との関係を示すものといえます。

薬医門は切妻造りで、茅葺き。本柱中心の間隔が二・六七mで、大戸がついています。木組みは本柱、控柱、冠木、腕木からなっています。木部の赤は、黄土を焼いて作る赤い顔料である紅殻(ベンガラ)によるもので、当初は柿渋が塗られていました。道路からご覧になれます。



練馬区教育委員会
生涯学習課
(文化財係)
☎ 3993-1111
〒 176-8501
練馬区豊玉北6-12-1

関のかんかん地蔵(一基)

指定有形民俗文化財

- 所有者 石神井台一―一五 三宝寺
- 所在地 関町東一―一八
- 総高二二〇cmで、蓮華座に載り珠杖を持った立姿の石造で、青梅街道に面して立っています。

台石は六角形で、「武州豊島之郡 関村」、「正〇〇年辛卯 十月大善根日」などの陰刻があり、旧関村の人々によって正徳元年(一七一二)に立てられたことがわかります。文政二年(二八二八)完成の地誌『新編武蔵風土記稿』に「石地蔵像 座像長六尺、青梅道ノ北側ニ立リ、関ノ地蔵ト云、祈願ヲナスモノ石ニテ打テバカ子ノ音アルヲモテ、カンカン地蔵トモ云」とあり、江戸時代から信仰を集めていた様子がわかります。現在でも地域の人々によって守られています。道路からご覧になれます。



中野屋商店文書(一括)

登録有形文化財

- 所有者 練馬区教育委員会
- 所在地 郷土資料室
- 下土支田村(後に大泉村)で肥料や雑貨などを販売していた中野屋商店(加藤家・現土支田四丁目)の営業関係文書です。明治七年(一八七四)から昭和六年(一九三一)までの一〇〇点余りがあります。

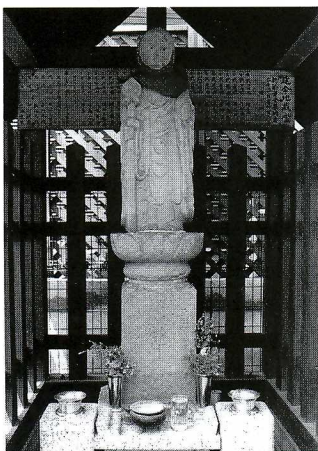


決算帳や仕入れ帳、販売簿などから明治期から昭和戦前期にかけての下土支田村・大泉村の商店営業の様子を知ることができます。資料です。ご覧になりたい方は、郷土資料室に問い合わせてください。

谷原延命地藏(一基)

登録有形民俗文化財

- 所有者 練馬区教育委員会
- 所在地 谷原一―一七地先
- 総高一八〇cmの石造で、蓮華座に載り珠杖をもち、富士大山道と橋戸道の分岐する所に立っています。



往來の多い道沿いに立てられることが多かった延命地藏のあり方を示すとともに、当時の地藏信仰を今に伝えています。道路からご覧になれます。

練馬区指定文化財一覧

年度	名称	登録年度
元	小島家文書 南蔵院鐘樓門	昭和62年度 昭和63年度
2	北条氏康印判状 町田家文書 中里の富士塚 大八車	昭和61年度 昭和63年度 昭和63年度
3	服部半蔵奉納の仁王像 長命寺仁王門 春日町出土の壺形土器	昭和62年度 平成元年度 平成元年度
4	妙福寺文書 尾崎遺跡出土品	平成元年度 平成3年度
5	下練馬の大山道道標 下練馬の富士塚	平成3年度 平成元年度
6	豊島氏奉納の石燈籠 水川神社富士塚 鶴の舞	昭和62年度 平成2年度 平成4年度
7	御府内并村方日記 北町聖観音座像	平成3年度 昭和62年度
8	井口家文書 井口家文書 井口家文書 長享二年の申待板碑 練馬東小学校のフジ	平成5年度 平成6年度 平成7年度 昭和61年度 平成6年度
9	石幢七面六観音勢至道しるへ 長命寺の梵鐘 三宝寺の梵鐘 妙福寺の梵鐘	昭和62年度 昭和61年度 昭和61年度 昭和62年度
10	閻魔・十王像と檀拵幢 千川家文書 丸山東遺跡出土の木製品	昭和63年度 平成9年度 平成8年度
11	本寿院のみくじ道具 小美濃英男家文書	平成7年度 平成7年度
12	相原家薬医門 関のかんかん地藏	平成2年度 昭和63年度

練馬区登録文化財一覧
(有形文化財)

No.	名称	所在地・所有者等
1	長命寺の梵鐘	高野台3―10長命寺
2	三宝寺の梵鐘	石神井台1―15三宝寺
3	北条氏康印判状	石神井台1―16道場寺
4	昭和62年度	
5	服部半蔵奉納の仁王像	高松3―19御嶽神社
6	豊島氏奉納の石燈籠	石神井台1―18水川神社
7	石幢七面六観音勢至	中村3―11良弁塚
8	道しるべ	(管理者) 南蔵院
9	双蝶々曲輪日記図絵馬	高野台3―10長命寺
10	牛若丸・弁慶図絵馬	高野台3―10長命寺
11	妙福寺の梵鐘	南大泉5―6妙福寺
12	小島家文書	郷土資料室
13	南蔵院鐘樓門	中村1―15南蔵院
14	水川神社の旧拝殿	豊玉南2―15水川神社
15	榎本家長屋門	南田中4―13榎本悦
16	水川神社の水盤	石神井台1―18水川神社
17	角柱型水盤	水川台4―47水川神社
18	閻魔・十王像と檀拵幢	大泉町6―24教学院
19	水川神社の狛犬	水川台4―47水川神社
20	町田家文書	東大泉7―25町田和雄
21	伊賀衆奉納の水盤・鳥居	大泉町5―15水川神社
22	平成元年度	
23	長命寺仁王門	高野台3―10長命寺
24	加藤家文書	土支田4―45加藤正八
25	妙福寺文書	南大泉5―6妙福寺
26	春日町出土の壺形土器	郷土資料室
27	※旧震災復興仮設住宅(解除)	
28	尾張殿鷹場碑	大泉町3―16大泉第一小学校
29	平成2年度	
30	相原家薬医門	田柄5―8相原好吉
31	横山家文書	高野台1―7横山茂樹
32	新井家文書	桜台3―45新井忠之
33	縄文時代の竹カゴ	郷土資料室
34	金銅製飾具	郷土資料室
35	尾張殿鷹場碑	郷土資料室
36	平成3年度	
37	宮田橋敷石供養塔	高松2―3(管理者) 練馬区
38	下練馬の大山道道標	北町1―38北町児童遊園(管理者) 練馬区
39	紙本着色以天宗清像	桜台6―20広徳寺
40	絹本着色明聖宗普像	桜台6―20広徳寺
41	紙本墨画淡彩希聖宗普像	桜台6―20広徳寺
42	土支田八幡宮の半鐘	土支田4―28土支田八幡宮
43	阿弥陀寺の半鐘	練馬1―44阿弥陀寺

41	40	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	
御府内井村方日記 尾崎遺跡出土品	尾崎遺跡出土品 春日町5-12春日小学校 尾崎遺跡資料展示室	莊家文書 郷土資料室(所有者) 莊半蔵	増島家薬門 谷原3-19増島一平	井口家文書 関町北2-7井口正利	比丘尼橋遺跡出土の旧石器 郷土資料室	相原正太郎家住宅 春日町5-24相原正太郎	石製絵馬 南田中5-14稻荷神社	井口家文書 関町北2-1井口敏	武蔵岡遺跡出土の大型槍先形石器 郷土資料室	三寶寺山門 石神井台1-15三寶寺	井口家文書 関町南4-5井口栄一	小美濃英男家文書 大泉学園町2-23 小美濃英男	高稲荷遺跡出土の旧石器 郷土資料室	西大泉の稲荷神社本殿 西大泉5-1稲荷神社	阿弥陀寺の伏せ鉦 練馬1-44阿弥陀寺	金乗院の朱印状 錦2-4金乗院	丸山東遺跡出土の木製品 郷土資料室	中宮遺跡出土の小型壺形土器 郷土資料室	水川神社の神輿 豊玉南2-15水川神社	本寿院の養錢箱 早宮2-26本寿院	明叟宗普の墨跡 桜台6-20広徳寺	千川家文書 郷土資料室	八幡神社の本殿 中村南3-2八幡神社	北町の仁王像 北町2-38	長谷川家文書 (管理者)北町二丁目町会 春日町3-29長谷川恒範	絹本着色釈迦十六善神像 桜台6-20広徳寺	橘紋椿几帳柄鏡 石神井町5-19禪定院	八ヶ谷戸遺跡出土の 郷土資料室	大形把手付縄文土器 郷土資料室	中野屋商店文書 郷土資料室	昭和61年度 江古田の富士塚 小竹町1-59浅間神社

29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2
谷原延命地蔵 神輿渡御行列図絵馬	谷原1-17地先 水川台4-47	齋油車用具 郷土資料室	南田中1-22斉藤勝	九影聖観音立像廻り供養塔 旭町2-9 稲荷神社	井戸替え用具 郷土資料室	棒屋資料 郷土資料室	富士講巡拝装束 郷土資料室	織部燈籠 石神井町5-19禪定院	石幢六面六地蔵 石神井町5-19禪定院	中里の富士塚 長享二年の申待板碑 郷土資料室	北町聖観音座像 北町2-38北町観音堂 (管理者)北町二丁目町会	石神井台1-15 三寶寺	大八車 郷土資料室	関のかんかん地蔵 関町東1-18 (管理者)三寶寺	狐の大根取り入れ図絵馬 西大泉3-13 諏訪神社	下練馬の富士塚 北町2-41浅間神社	水川神社富士塚 北町8-22水川神社	沢庵漬製造用具 郷土資料室	文応元年の弥陀板碑 石神井台1-16道場寺	水川神社の力石 豊玉南2-15水川神社	高松の庚申塔 高松2-3(管理者)練馬区	僧形馬頭観音 早宮2-26本寿院	金乗院の一石六地蔵 錦2-4金乗院	丸彫青面金剛 下石神井5-7-11地先	庚申塔 伊保ヶ谷戸庚申講	本寿院のみくじ道具 早宮2-26本寿院	力持ち惣兵衛の 馬頭観音 大泉学園町2-27-14地先 加藤ひで

30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
江古田の富士講関係資料 小竹町1-59 浅間神社	〔無形民俗文化財〕 ※鼈甲螺鈿時絵 高野台3-37土方吉雄 (解除)	※棒柄の製作技術 関町南3-8井口平蔵 (解除)	平成5年度 絵馬制作 貫井5-14平田郡司	平成6年度 ※ホウキ製造技術 高松1-37鹿島佐平	ホウキ製造技術 高松1-37篠田蔵治	〔鼈甲螺鈿時絵〕 土方吉雄 平成6年9月14日、 〔棒柄の製作技術〕 井口平蔵 平成7年5月21日、 〔ホウキ製造技術〕 鹿島佐平 平成10年6月26日死亡 により登録解除。	〔無形民俗文化財〕 昭和63年度 1 探湯の儀 中村3-8御嶽神社 (保持者) 神田定男	平成元年度 2 関のぼろ市 関町北4-16本立寺門前 旭町1-26北野神社他 (保持団体) 八丁堀三吉囃子保存会	3 石神井囃子 旧上石神井村、旧下石神井村 (保持団体) 石神井囃子連	4 中村囃子 中村南3-2八幡神社 (保持団体) 中村囃子連	平成3年度 5 ※ちがや馬飾り解除 北町1-45 (保持者) 内田安太郎	6 谷原の餅掲ぎ唄 高野台3-37 (保持者) 増島兼吉	7 谷原の麦ボウチ唄 高野台3-37 (保持者) 増島兼吉	8 関町囃子 関町北3-34天祖若宮八幡宮 (保持団体) 関町囃子連	9 鶴の舞 水川台4-47水川神社	10 神輿渡御の 御供道中歌 水川神社宮宿鶴の舞保存会	11 水川神社宮宿鶴の舞保存会 水川台4-47水川神社 北町1-22 (保持者) 内田和助

13	14	15	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10									
ちがや馬飾り 東大泉5-40 (保持者) 加藤義雄	ちがや馬飾り 北町1-24(保持者)山口勝男	中里囃子 大泉町1-44八坂神社 (保持団体) 中里囃子連	〔天然記念物〕 昭和63年度 1 練馬白山神社の大ケヤキ 練馬4-2白山神社	平成元年度 2 井頭のヤナギ 東大泉7-34大泉井頭公園	3 カタクリ群落 大泉町1-6清水山憩いの森	平成3年度 4 八の釜の湧き水 東大泉2-27八の釜憩いの森	白石悦市 早宮3-41内田市五郎	平成6年度 5 内田家の屋敷林 早宮3-41内田市五郎	練馬東小学校のフジ 春日町1-30	平成10年度 6 光伝寺のコウヤマキ 水川台3-24光伝寺	〔史跡〕 昭和63年度 1 東高野山奥之院 高野台3-10長命寺	2 小野蘭山墓 練馬4-27迎接院墓地 小野家	3 池水道雲墓 練馬4-27受用院墓地 池永家	4 尾崎遺跡 春日町5-12 練馬区	5 池淵遺跡 石神井町5-12 練馬区	6 栗原遺跡の 水川台1-7	7 竪穴住居跡 都立城北中央公園内 東京都	8 千川上水跡 関町南2-4丁目他 東京都	9 旧大泉村役場跡 大泉町2-2大泉中島公園 練馬区	平成7年度 10 田柄用水記念碑 田柄4-27天祖神社	平成8年度 11 千川家の墓 北町2-18阿弥陀堂墓地 千川家

神輿渡御行列団絵馬(一面)

登録有形民俗文化財

●所有者 氷川台四―四七 氷川神社

●屋根型五角形の一枚板に着色された絵馬で、厚さ1cm・横一四三cm・高さ五六cmです。

氷川神社の春祭、お浜井戸の里帰り行列(神輿渡御行列)が石神井川沿いに進んでいく様子を彩色豊かに描いています。サーベルを持った制帽制服姿の巡査が先導し、紋付き羽織袴姿の氏子二人を先頭に、御幣・太鼓・獅子頭・鶴の冠・鉾・吹き流し・傘・刀・旗持ち・神輿・神饌(神を祭るときに供える酒食)櫃担ぎ、その後に扇子を口にあて道中歌を歌う氏子など五十名余りの行列が描かれています。絵馬の上部には、「下練馬郷社氷川神社春季例祭御浜江戸渡御之□□」、画面右上に、薄れて読みにくくなっていますが、「奉納」、「明治四十三年十二月三十一日」の銘と奉納者氏名が記されています。

お浜井戸の里帰り行事は、今でも三年に一度行われており(今回は平成一五年)、当時の村まつりの様子をうかがうことができる資料です。非公開。



(拡大)

江古田の富士講関係資料(一括)

登録有形民俗文化財

●所有者 小竹町一―五九 浅間神社

●江戸時代から昭和戦前期まで盛んであった富士信仰の様子を伝える祭具類で、国の重要文化財でもある江古田の富士塚に關係した旧上板橋村小竹周辺地域の富士信仰の団体、小竹丸祓講が用いていたものです。

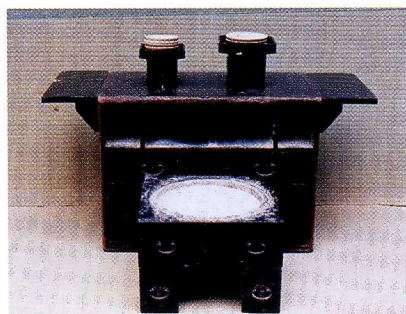
お炊きあげ道具、講旗、御身貫があります。お炊きあげ道具は、祭壇を兼ねる箆筒の中に、捧げ物などを載せる台である大小二つの三方、素焼きの皿であるかわらけ六枚、火打ち箱一つ、講社札一枚、灰炉一つが納められています。箆筒は、幅五八cm・奥行き三五cm・高さ四五cm、木製で漆が塗られています。正面には講



講旗



御身貫



お炊きあげ道具

紋(富士講の印)、向かって右側面に「上板橋 氏子中」と朱書きされています。火打ち箱の裏に「□治十五年六月廿二日」

(明治一五年)と書かれています。講旗は、幅七三cm・長さ三八五cmで、木綿製です。赤地である表面の上部に雲と日月の刺しゅうと講紋、中央には「上板橋同行」という文字が縫い付けてあったようです。裏面は白地に墨書で、「武蔵野茅原夏雪仙元」、その下に染で「小日向三代目染□」とあります。御身貫は幅一二cm、長さ三八cm、深さ六cmの桐箱で、戸はスライド式になっており、講紋と「講社」の墨書がある背負い袋に入れられています。箱には浅間大神、小御岳大神、導師の軸が納められています。非公開。